

平成27年6月定例会 地方創生総合戦略・行財政改革特別委員会の概要

日時 平成27年 7月 8日(水) 開会 午前10時 3分
閉会 午前11時19分

場所 第3委員会室

出席委員 田村琢実委員長

小川真一郎副委員長

内沼博史委員、細田善則委員、星野光弘委員、新井一徳委員、長峰宏芳委員、
野本陽一委員、井上将勝委員、高木真理委員、鈴木正人委員、権守幸男委員、
柳下礼子委員

欠席委員 なし

説明者 [企画財政部]

中原健一企画財政部長、小島康雄企画財政部副部長、土田保浩地域政策局長、
北島通次企画総務課長、吉田雄一企画総務課政策幹、細野正計画調整課長、
竹中健司地域政策課長、徳重覚市町村課長

会議に付した事件

地方創生総合戦略について

地方創生による市町村の魅力ある地域づくりへの支援について

高木委員

- 1 資料1の1ページに、地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定・検証プロセスとして、議会において十分な審議が行われるようにすることが重要とあるが、県の地方創生総合戦略を策定していく中で、この特別委員会で状況を報告していくのか。
- 2 県の地方創生総合戦略の策定スケジュールはどうなっているのか。
- 3 資料1の5ページに、県の人口の将来推計があるが、国の基本目標には、「地方への新しいひとの流れをつくる」とあり、東京圏への年間10万人の転入超過を6万人減らしていくこととなっている。人口の将来推計のうち、「試算2」の社会移動の状況は、この目標が実現することを想定したものか。

計画調整課長

- 1 この特別委員会の審査事項として地方創生総合戦略を取り上げていただいているので、今後もこの特別委員会の中で策定状況を報告させていただきたい。
- 2 市町村が総合戦略を策定にするに当たり、国及び県の総合戦略を勘案することとされていることから、なるべく早い時期に、遅くとも年内には県の総合戦略を策定したいと考えている。
- 3 人口の将来推計の「試算2」は、現在の社会移動の状況が今後も続くというものであり、東京圏への転入の減少を反映しているものではない。

高木委員

県の総合戦略策定のタイムスケジュールを細かく聞かせてほしい。産業界、市町村、行政機関、教育機関等の関係者の意見を広く反映することが重要とのことだが、意見を聴く機会として、何回くらいの会議をどのように進めていくのか。

計画調整課長

広く関係者の意見を反映するため、有識者会議を4月に設置し、5月と6月に1回ずつ会議を開催した。メンバーには、産業界、大学、金融機関、メディアなど多様な方々に集まっただき、意見を出していただいた。次回の開催時期は未定であるが、今後も適宜開催し、いただいた意見を参考にして、総合戦略の策定を進めていきたい。

内沼委員

- 1 県内の市町村は、平成26年度から補正予算を組んで地方創生に関係する事業を行っている。平成27年度も既に様々な事業に取り組んでいる市町村がある。県は、市町村間の取組に関する連絡調整や情報提供を行っていくとのことだが、具体的にどのような形で関わっていくのか。
- 2 日本創成会議が発表した消滅可能性都市は県内にも存在している。私の地元の飯能市も消滅可能性都市になってしまった。県は、消滅可能性都市となった市町村への支援をどのように行っていくのか。
- 3 資料1の4ページに地域別の状況があるが、秩父地域は、人口増減率、高齢化率、社会増減率では県内ワーストとなっている。一方で、合計特殊出生率は、さいたま、南西

部、秩父の3地域がほかの地域に比べて高いが、秩父地域が高いのはどのような理由が考えられるか。

地域政策課長

- 1 地域振興センターごとに設置している未来会議等で、各市町村の予算の状況や総合戦略策定の進捗状況を確認している。その中で、県の財政支援が可能なものがあれば支援している。
- 2 消滅可能性都市について特別な支援はしていないが、未来会議等の議論の中で特に必要な事業が出てくれば、支援していきたい。

計画調整課長

- 3 秩父地域の合計特殊出生率が高いのは、三世代世帯が多いことや、親が近くに住んでいることなどで、子育てしやすい環境があることが影響しているのではないかと考えられる。

内沼委員

- 1 総合戦略の策定について、市町村ごとの取組状況に温度差があり、先行している市町村とこれからという市町村に差があると思う。取組の進んでいない市町村に対して、未来会議等でどのように支援していくのか。
- 2 秩父地域は子育てしやすく、合計特殊出生率が高いということであれば、秩父地域の人口が増えてもよいのではないか。

地域政策課長

- 1 市町村の取組状況に温度差があるということは委員御指摘のとおりである。地域振興センターごとに設置している未来会議において、各市町村の取組状況を確認するとともに、先行する市町村の策定スケジュールを示している。また、地域に共通する政策課題について一緒に議論している。こうした取組により、策定が極端に遅れる市町村が出ないよう支援していきたい。

計画調整課長

- 2 資料1の4ページに社会増減の状況を示しているが、秩父地域では転出が多い状況である。20代前半の若い世代の転出超過が多く、人口が減少している。

細田委員

- 1 本年6月に、国から「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」が示されたが、県の総合戦略の策定にどのような影響があるのか。
- 2 資料1の5ページの県の人口の将来推計のうち「試算3」では、合計特殊出生率が2.07に上昇すると仮定している。他の自治体では、2.07を目標としたことで話題となっているが、県でも合計特殊出生率を2.07にすることを目標として認識しているのか。

計画調整課長

- 1 国の基本方針は、今年度の地方創生の方向性を示すとともに、来年度以降の施策展開につなげていこうとするものであり、地域の総合力や民の知見を引き出すといった観点

から総合戦略の政策パッケージを拡充・強化するものである。県の総合戦略策定の参考にしていく。

- 2 国の長期ビジョンにおいて、合計特殊出生率を2030年には1.8、2040年には2.07として算定している。「試算3」は、国の長期ビジョンの算定方式をそのまま用いて試算したものである。

柳下委員

- 1 国の長期ビジョンには、人口減少、東京圏への人口集中の問題が記載されているが、人口減少や東京圏への人口集中の理由をどのように分析しているのか。
- 2 目指すべき将来の方向として、「若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する」とあるが、女性や若者は2人に1人が非正規雇用であることや、保育所に入れないため働きたくても働けなかったり、学童保育にも入れないような子育てしにくい環境であることから、若者が希望を持っていない。このような状況をどう改善していくのか。
- 3 策定・検証プロセスで、広く関係者の意見を反映していくとのことだが、行政には若者の意見が反映しにくいと思う。若者の意見を聴いていくことについてどう考えるか。
- 4 市町村の総合戦略策定において、県は市町村間の連絡調整を行っていくとのことだが、小さくても頑張っている市町村もあり、その取組を全県的に普及すべきと考えるがどう考えるか。
- 5 滑川町では、合計特殊出生率が1.52であり全県で1位である。滑川町は給食費の無料化や敬老祝い金の支給などを行っており、こうした取組を議論していくことも必要である。未来会議において、比企地域、利根地域では、合計特殊出生率の向上がテーマとなっているが、具体的な議論の中身はどのようなものか。
- 6 地域振興センターがコーディネーターとなり未来会議を行っているとのことだが、地域振興センターはどのような役割を果たすのか。

計画調整課長

- 1 人口減少は、合計特殊出生率が低下している影響が大きい。また、東京圏への人口集中については、若い世代が大学入学や就職の際に、地元を離れて東京に行く人が多いためである。二次産業よりも三次産業が多くなるという産業構造の変化により、東京圏へ人が流れているとも考える。
- 2 非正規雇用の問題については、産業労働部が若者を非正規雇用から正規雇用にしていく様々な取組を行っている。また、子育ての問題については、福祉部が保育所の整備や多子世帯の支援などの取組を行っている。これらの実効性の高い取組を深化させていくことが必要と考えている。
- 3 埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議は15人の委員を選任したが、なるべく若い世代の方に委員になっていただけるよう人選に配慮した。また、県の総合戦略策定に当たっては、どこかのタイミングで広く県民から意見を聴くことも必要と思っている。

地域政策課長

- 4 市町村の好事例については、市町村担当者の連絡会議や未来会議で紹介し、参考にしてもらっている。また、今年度からふるさと創造資金に超少子高齢化対策モデル支援事業を新設し、補助率を上げて支援している。その事業はモデルとして他の自治体にも参考にしてもらいたいと考えている。

- 5 比企地域や利根地域での合計特殊出生率が低いことについて、有配偶率が低いことや産科の数が少ないこと、東京からの距離などが関係しているのではないかといった議論があり、データを分析している段階である。
- 6 地域振興センターは、地方創生について日常的な相談業務に応じるとともに、未来会議に有識者を招いたり、財政支援への問い合わせに応じたり、内容によっては県の担当部局につなぐなど課題解決に結び付けている。

柳下委員

- 1 小鹿野町は、第1子の教材費や給食費の補助をしている。このような事業は推進していくべきである。子育てや若者の就業など、地方創生の課題は様々な部局にまたがるものであり、県の総合戦略の策定に当たっても、各部局からリアルな情報を集めないと生きたものにならない。庁内の連携をどのように進めるのか。
- 2 市町村の優れた事例をしっかりと情報提供していただきたいと思うがどうか。

計画調整課長

- 1 子育て支援、非正規雇用対策など、幅広い分野に課題がまたがっているのが地方創生である。既に庁内連絡調整会議を設置しているが、今後、総合戦略の策定作業が加速していくので、現場の実態を把握しているそれぞれの担当課の意見をしっかりと聴いていく。
- 2 優れた事例を横展開していくことが重要であると考えている。優れた取組については、市町村へ情報提供して広めていく。

柳下委員

具体的に小鹿野町の事例を紹介したが、このような事例の評価をどう考えるのか。

地域政策課長

紹介いただいた小鹿野町の事例を地域振興センターに伝え、管内市町村の参考になるようであれば情報提供していきたいと考えている。

野本委員

- 1 合計特殊出生率について、県の直近の合計特殊出生率及びその全国順位はどうなっているか。
- 2 埼玉県は、合計特殊出生率が低く、同時にM字カーブの谷が深いのが、どう理解すればいいのか。M字カーブが深いということは、女性が家庭にいるということであり、就業率が低いということである。本来であれば、就業している人が多くて合計特殊出生率が低くなってしまっているのであれば、M字カーブの谷が浅くなるはずではないのか。
- 3 県の総合戦略は、県行政の大部分をカバーするものになると思うが、今後、地方創生総合戦略と県の5か年計画を重ねていくことになるのか。5か年計画については、議会では過去に特別委員会を設置して審査してきたこともあるため、考え方を確認しておきたい。

計画調整課長

- 1 県の合計特殊出生率は、平成26年は1.31であり、全国順位は40位である。
- 2 合計特殊出生率には、就業だけではなく複雑な要因が関係していると考えている。子育てにはお金や時間がかかるので、2人目、3人目をもちたいというマインドが高まっ

ていないことが考えられる。

- 3 5か年計画は県の最上位の計画であり、現在の5か年計画は平成28年度が終期である。今後、次期の5か年計画を策定していくが、この地方創生総合戦略を重ねていくことは考えていない。

野本委員

育児の負担が大きくなればM字カーブの谷が深くなるはずである。普通に考えれば、M字カーブの谷が深いということであれば、合計特殊出生率が低いということにはならないはずである。M字カーブの谷が深く、子どもを産む年代の方が就業していないのに合計特殊出生率が低くなっているのは埼玉県だけなのか。埼玉県の合計特殊出生率が低いのはなぜか。

企画財政部長

合計特殊出生率には複雑に要因が絡んでいて、明確にこれだという要因はない。例えば、福井県では女性の就業率が高いが合計特殊出生率も高い。埼玉県は、長距離通勤が多いことや、周りの育児のサポートの状況などの影響も考えられる。今後、出生率とM字カーブの相関関係について分析していきたい。

野本委員

- 1 埼玉県は、合計特殊出生率が低く、M字カーブの谷が深いという関係になっている。埼玉県だけがそうなのか、それとも他都道府県もそうなのかという傾向を調査することは、県の置かれた状況にどのような問題があるのかを知ることにもなり、重要である。しっかりと分析してほしい。(要望)
- 2 県の5か年計画は、地方創生総合戦略とは別に策定するということでよいか。

計画調整課長

- 2 そのように考えている。

高木委員

先ほど、資料1の5ページの人口の将来推計の「試算2」について、東京圏への年間10万人の転入超過を6万人減らすことを想定したものかを確認したが、「試算1」についてはどうか。国の地方創生の基本目標が実現すると、東京圏への転入超過が6万人減り、「試算1」のように人口が減ることになるのか。

計画調整課長

「試算1」は、現在は転入超過である人口の社会移動が均衡するという本県にとって一番厳しい条件を設定して試算している。

高木委員

国の目標が実現すると、試算の結果よりも厳しい状況になるのか。

計画調整課長

国の目標は東京圏への転入超過を6万人減らすというものであり、埼玉県以外の都県も含む目標である。推計は本県分だけであるが、国の基本目標に沿って仮定した場合の推計

に当たるものである。

柳下委員

M字カーブの話題が出たが、埼玉県はM字カーブの谷が全国的にも低い。これは、埼玉県が子育てしにくく、女性が働きにくい県だということである。若者や子育て中の女性にも未来会議に入ってもらいたいと思うがどう考えるか。

計画調整課長

何かの形で県民の多様な意見を聴き、総合戦略を策定していきたい。